

平成19年度第3回 経営協議会議事要録

日 時 平成19年12月10日（月）14：00～16：15
場 所 事務局第1会議室
欠席者 田代教育学部長、白石工学部長（代理：横山評議員）、上月委員、
土肥委員

配付資料

- ・ 平成19年度第2回経営協議会議事要録（案）
- 1. 平成20年度予算編成における検討課題（案）
- 2. 平成19年度補正予算（第二次）について
- 3. 国立大学法人茨城大学役員退職金規程の改正理由及び改正規程対照表
- 4. 茨城大学における地域連携
- 5. 平成18年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
- 6. 平成19年度茨城大学予算の執行状況について（平成19年4月～10月）
- 7. 中期目標期間評価のスケジュール案

議 事 概 要

議事に先立ち、学長から、田切評価室長（学長特別補佐）、三村学長特別補佐及び中島地域連携推進本部長の陪席について提案があり、了承された。

I 議事要録の確認

平成19年度第2回経営協議会議事要録について、原案のとおり確認された。

II 審議事項

1 平成20年度予算編成における検討課題について

学長から、平成20年度予算編成における検討課題について審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、内容について配布資料1に基づき補足説明があり、審議の結果、提案の内容で予算編成に入ることが了承された。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 在籍者数・充足率は、収入の大きな要素となるので、これらについて、大学として分析等をしているのか。また、学部 비해大学院の充足率が低くなっているがその理由は何か。
- 附属学校教諭と公立学校教諭との給与格差が、双方の円滑な人事交流を妨げる要因となっているので、是非、附属学校に優秀な教諭が集まれるよう格差是正を進めていただきたい。
- 学長方針に「入学したい大学、入学して良かった大学」というのがあるが、大学として学生のニーズにどの程度応えているのか。たとえば、夜間でも使用できる学習スペースが欲しいとか、パソコンを利用したいときに誰もが利用できるようにして欲しいとかといった学生の教育環境の整備に配慮をしていただきたい。

- 自己収入の増収を図るために新たな増収策を検討するということだが、地域としても大学の知を有効に活用したいと思っているので、大学らしい事業を是非考えていただきたい。節約だけでは中々対応できないので、いろいろ工夫をして本当に大学らしい増収策を考えていただきたい。
- 中期目標と予算編成との関係はどのような捉え方をしているのか。中期目標の進行管理は年度ごとに実施しているのか。次期中期目標の検討に当たっては、今までの実績をきちんと分析しておく必要がある。
- 運営費交付金は収入の柱となっているが、業務実績に関する評価結果と運営費交付金の算定方法との関係はどのようになるのか。

2 平成19年度茨城大学補正予算（第二次）について

学長から、緊急を要する特別事業及び建物改修4事業の経費に充てるため、平成19年度当初予算の補正を行いたいので審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、内容について配付資料2に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

3 国立大学法人茨城大学役員退職金規程の一部改正について

学長から、茨城大学役員退職金規程を改正したいので審議願いたい旨提案があり、さらに、人事課長から、内容について配布資料3に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

4 茨城大学における社会連携の現状と課題について

学長から、本学における社会連携の現状と課題について意見を伺いたい旨発言があり、さらに、山形理事、海老澤理事及び中島地域連携推進本部長から、配布資料4に基づき内容について説明があり、意見交換が行われた。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 社会連携は双方向的な連携との説明があつたが、どちらかというとなら大学側から地域に向けてのプレゼンテーションが多いので、民間から大学へのアプローチを強化する必要があるのではないかと。たとえば、現在行われている経営者協会の主要なメンバーによる大学での講義のようなものが広がるように力を入れて取り組んでいただきたい。
- 筑波大学が中心となつてつくば地区の試験研究機関との協議会を作って来年7月の洞爺湖サミットに向けたエコ対策の提案を議論している。是非茨城大学でも地域ばかりでなく、視野を広くされて、日本に向けて、世界に向けてというような連携の在り方を考えていただきたい。
- 茨城県と地域連携の協定を結ぶということだが、県の予算編成の時期に合わせて、県と大学が協議する場を設置して大学から県に対して提言を行っていけば、大学としての存在意義も高まるのではないかと。
- 様々なすばらしい連携を行っているのですが、さらにPRに力を入れて学外に周知していただきたい。
- 地域連携活動を組織として継続的にやっていくためには、ギブ・アンド・テークの関係が不明確だなどという感じがする。たとえば、大学や地域が相手方に対してどのようなことができたのか、次年度もそれを継続して行うのか、そう

いうことを評価し明確にしておく必要があるのではないか。

- 地域連携のために自治体等と協定を締結しているが、学部単位で行われているものについては、他学部も参画するなどその取組みをさらに大きくすべきではないか。

Ⅲ 報告事項

1 平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果について

山形理事から、平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果について、国立大学法人評価委員会から、10月5日付けで配布資料5のとおり通知があった旨報告があった。

2 平成19年度予算の執行状況について

財務課長から、平成19年度予算の執行状況について、配布資料6に基づき報告があった。

3 次期中期目標・年度計画の検討スケジュールについて

学長から、10月に総合計画委員会を設置して検討中である次期中期目標等の検討スケジュールについて、報告したい旨発言があり、さらに、田切評価室長（学長特別補佐）から、内容について配布資料7に基づき報告があった。

4 その他

(1) 次回の経営協議会で議論するテーマについて

学長から、次回経営協議会での個別テーマは「施設整備の今後の在り方」としたい旨発言があった。

(2) 経営協議会会議資料の公開について

学長から、経営協議会会議資料の公開について、確認があった。

- 次回経営協議会 1月28日（月）を予定